

公的：「りたらしいまちづくり」

NPO法人 岡崎まち育てセンター・りた

愛知県岡崎市で「まちづくり」をする「NPO法人 岡崎まち育てセンター・りた」。一言で「まちづくり」と言っても、その言葉の意味するところは広い。そもそも「りた」って何なのか？ 何が目指しているのか？ 一問一答方式で解き明かす。



▲目にも耳にも楽しいやりとりが飛び交う二時台（八幡町）

Q1. りたとは？

りたは、その名の通り、岡崎のまちを育てるNPO。ここで言う「まち」とは、ある具体的な空間とその形成される人間関係を指す。りたが対象とする空間は、公園や遊歩道、駅・図書館、地域交流センターなど、誰でも使う権利がある公共空間であり、それらをまわつたりを考へて、地域だまづくりとまちづくりを考へて、家族づくりは、家を建てる主とその家族が施主だ。お金を出すのも施主なら、家での暮らしを思い巡らす、どんな空間にするかを決定し、大事に使っていくのが施主だ。



▲路地の魅力を探るまち歩きツアー（六軒町）

Q2. りたはなぜできたのか？

りたはプロジェクト2「まちづくり」NPOと公共施設の指定管理 一地域交流センターの育て方」を契機として、



▲まち育てセンターの会議室（六軒町）

Q3. りたの人たちってなにやってるの？

りたの仕事はいろいろだが、「自分のまちに愛着を持つ」、「自分自身のデザインや管理に携わる」機会を増やすことを主眼に置いている。今まで気づかなかった空間の良い路地を見つけたり、いつも前を通っていたお家に突如として歴史が

あついたり、素敵なお店に出逢ったり、誰かに言いたくなるようなまちの魅力に気づくことがまちづくりの第一歩だ。そうした場の中には、自分の家や町を愛しむように、手を取り合ったり、守り、育てていかなければ



▲岡崎東野北口にぎわい広場ワークショップ（明徳保南園）

Q4. ワークショップとは？

Workshopを辞書でひくと、作業場とか工房であり、Wikipediaでは「日本では「体験型講座」を指す」と書いている。りたの仕事として行っている「まちづくりワークショップ」は、主に行政が整備する公共空間（公園、道路、図書館、地域交流センターなど）の計画・デザインを検討する。誰でも参加できるオープンな会議であり、6~8人程度のグループに分かれ、横断的や付随的、マジックなどを用いて、手を動かしながら自由に意見を出し合ひ、まとめていくことが特徴だ。

Q5. なぜワークショップなの？

ワークショップでは、行政・市民・NPO、生まれ代々の垣根を超えて、対等な立場で自由に意見を出し合ふ。まちづくりワークショップをやることの意義は、ある専門的な見方から離れ、多様な意見から思いがけない突破口を

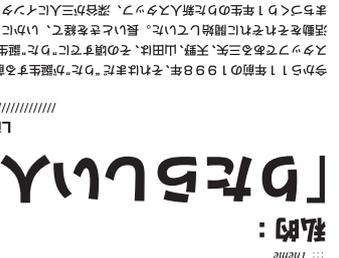
Q6. りたらしいまちづくりとは？

まちの姿と、そこに暮らしている人々とは、密接な関係がある。生活感の滲み出す路地、すれ違う人々自然に挨拶を交わす声、あるいは人々を寄せ付けないような態度が立ち並ぶ街路。いずれも人が空間を介して、いかに人と接しようとしているのかを表している。

まちを見れば、そこで暮らす人の顔が思い浮かぶ。人を見れば、そのまの姿が思い浮かぶ。生き生きとした「人とまちのつながり」を創っていくことが、りたの使命であり、まちに愛着を持つ

出したり、生活者の立場からあるべきまちの将来像を思い描き、それを実現する担い手育成までまわつたりする必要がある。自分のまちについて話し合おうと、知らなかったり、全く異なる価値観に触れたり、何より、いろいろな思いを持っている人々がいるということを感じずにはいられない。そこがまちの愛着へとつながっていくのだ。

まちづくりとは、家を建てる主とその家族が施主だ。お金を出すのも施主なら、家での暮らしを思い巡らす、どんな空間にするかを決定し、大事に使っていくのが施主だ。



▲まち育てセンターの会議室（六軒町）